

わが町は今

日本共産党 篠原光一坂出市議

坂出市は有福市政のもと、中心市街地活性化公民連携事業、小中学校の統廃合と小中一貫校推進など公民連携で更なる民間投資を促す構想のまちづくりを進めています。令和8年度の予算は7年度と比べて54億4350万と、比率にして29.5%の増となっています。学校給食費の補助を増やし、中学校までの給食費無償化を行うなどの予算増もあります。予算増の内、約42億は駅前再開発や学校再編整備事業にあてられています。市民からは「中心市街の整備だけ、周辺部の事など考えていない」との声が出ています。議会は残念ながら自民党の2会派・国民民主・公明党の会派の所属議員は、予算や中心市街地公民連携事業、学校統廃合に関する議案には全部賛成しています。定数削減や議員の報酬引き上げに反

対したのは、わたくし日本共産党の篠原光一だけです。

日本共産党の議席は一名です。なので会派として認められていません。議会運営委員会にも出られず、日々、歯がゆい思いをしています。少ない議席ですが毎回質問し議会報告をしてきました。まだまだ少ない実績ですが、介護サービス、市内の医療機関への給付金支給、スクールカウンセラーの増員や学校外における教育センターの設置、自宅まで回収に来るごみ収集の制度の実現と改善、中学校までの学校給食無償化実現に尽力できました。

公民連携の大型事業で民間の儲けや民間投資には熱心ですが、公共施設の存続・充実には背を向けています。この市政と対決し、市民の願いを実現するために全力を尽くします。



【2面から】の継続、「もみじ温泉」の存続、防災対策をもとめています。これまでも高齢者向けの福祉タクシー制度を充実させたり

町議会による議員定数の削減や議員報酬の引き上げに反対するなどの実績をつくってきました。

3月22日に開いた「町政報告会」には多数の町民が参加し、消防団や自治会関係の人からは、日頃の住民の声を聴いて頑張る三好町議への共感や激励が寄せら

岡田市議は、「皆さんとともに平和と暮らしを守りたい」と県政への挑戦の決意を表明。命や暮らしに関わる、公共交通、上下水道の料金やインフラ整備の遅れや、中央公園、高松競輪場、大型開発が進む市政の



業への国・県・市の予算拡充が必要だ」とのべ、塩江の道の駅や、行基の湯などインフラ整備の遅れを指摘しました。党市議団と無所属議員が協力し提出した「安心できる」【4面】

高松市政報告会 岡田・藤沢市議

日本共産党の岡田まなみ藤沢やよい両高松市議は26日、高松市で市政報告会に取り組みました。香川町党後援会の川西秀雄会長は、「政府の軍拡予算や憲法改悪、スパイ防止法など戦争ができる危険な体制づくりの一方で、全国で『戦争を止めてほしい』との国民の声がひろがっている。統一地方選など各自治体での選挙を通じ、自民党政治を変えるために力を合わせよう」と開会あいさつしました。

問題点を語りました。藤沢市議は、「カキ大量死や林業従事者の人手不足や技術継承の困難さについて、食料生産や山林整備をし、中長期的な第一次産

迫る町議会議員選挙

◎小豆島町議選

小豆島町議選(定数14)が4月7日告示、12日投票



でたかかわれます。日本共産党は、なべたに真由美氏(69)＝現Ⅱが10期目をめざします。17人が立候補する見通しです。

なべたに候補は多くの人たちと協力して署名を集め、議会質問を繰り返して、18歳までの医療費無料化や給食費の無償化などを実現。住宅リフォーム助成制度は今も継続されています。

共産党を除くオール与党の町議会で、なべたに候補は行政を住民目線でチェックし、議員報酬の引き上げや国保税・介護保険料の引

き上げに唯一、反対しました。住民団体から出された消費税引き下げを求める意見書にも、唯一、賛成しました。

党支部の住民アンケートで、約9割が暮らしに不安があると答えました。なべたに候補は、高齢者の移動手段を確保するオリーブパスの島民割引・福祉タクシの充実、子育てを支援する教育費・保育料の負担軽減など、生活者目線の政策実現を求め、命と暮らしを守る町政をめざします。

◎綾川町議選

綾川町議選は4月14日告示、19日投票でたかかわれます。定数14にたいして20人近くが立候補予定とい



『憲法を活かそう。つなぐ連帯のバトン』

みどり・香川 代表：渡辺さと子

私の参加している8・15戦争体験を語りつぐ集い実行委員会は、8月15日だけでなく、毎年、高松空襲のあった7月4日、太平洋戦争が始まった12月8日に集会などを開催しており、今年の8・15の集会は45回目となります。戦争体験世代の仲間から「あなたのような戦争を知らない人がちゃんと次の世代に伝えてほしい」と、この活動に誘われたのが、30数年前のことでした。

改めてこの間に取り上げてきたテーマを振り返ってみると、戦争の被害体験を伝えるだけでなく、植民地支配や加害責任、戦争と教育、戦争とメディ

ア、核兵器、沖縄の基地問題、憲法と集団的自衛権、そして今も世界で続いている戦争など、さまざまな切り口からこの戦争と平和の問題に迫ろうとしてきたことが思い出されます。ただ、悔しいことに戦争を体験した世代が世を去っていくとともに、この国は憲法をなし崩しにしながら、じわじわと戦争のできる国へと舵をきってきたと言わざるを得ません。どうしたら、今の状況に無関心な人たち、あるいは異なる意見を持つ人たちにいっしょに考えてもらえるか…というのが常に私たちの大きな課題です。希望を感じたのは、20

24年8月15日に開催した中村哲医師のドキュメンタリー「荒野に希望の灯をともし」上映会に多くの方がご参加くださったことでした。まさに「憲法9条を生きる」とも言うべき中村哲医師の生き方が無力感に陥りがちな私たちに希望と勇気を与えてくれました。

国連憲章や国際法を無視した武力行使が我が物顔に世界で猛威を振るう今だからこそ、人々が平和に生きるために本当に必要なものは何なのか…中村哲医師が身をもって示された武力によらない平和のつくり方を改めて心に刻みたいと思います。



う多数激戦の様相となっています。日本共産党からは三好和幸町議が再選を目指します。三好町議にとっては、前回の補欠選挙では無投票当選し、今回がはじめて

の選挙戦となっています。アメリカとイスラエルによるイラン攻撃を批判する日本共産党にたいして、町民から期待の声が広がっています。

物価高など暮らしへの悲鳴が上がるなか、三好町議は「自治体は住民のくらしを守るが仕事」として、国保税の引き下げや学校給食費の無償化 【3面に】